

地方整備局による港湾の地震・津波対策の検討スケジュール

平成23年7月

交通政策審議会港湾分科会防災部会の中間とりまとめを公表

平成23年8月

地方整備局(北海道開発局、沖縄総合事務局を含む)において、管内の港湾管理者、関係市町村、関係企業などで構成される地震・津波対策検討会議(仮称)を設置し、港湾における地震・津波対策の検討を開始

※ 前倒しで実施可能な対策については、本年度第3次補正予算、平成24年度予算に盛り込む予定

平成23年12月

各地方整備局管内の港湾を対象に、地震・津波対策基本方針を策定・公表

※とりわけ東海・東南海・南海地震による被害の軽減対策が急がれる関東、中部、近畿、四国、九州の5局では、早急に検討を進める

← [今後予定されている中央防災会議における東海・東南海・南海地震の見直しの結果を受け、必要に応じ基本方針の見直しを行う]

平成24年7月

各地方整備局管内の港湾を対象に、地震・津波対策を具体化

平成24年9月

平成25年度予算概算要求

地方整備局における港湾の地震・津波対策の検討概要

港湾の津波対策の検討内容

◎ 防災目標、減災目標の明確化

- 海岸堤防・護岸等天端高の見直し、粘り強い構造に係る技術的検討などを通じた海岸保全施設の整備方針の見直し
- 避難対策の強化に関する方針の明確化
- 被災時の港湾活動を継続するための港湾BCPの策定に関する方針の明確化

等

主要な課題

交通政策審議会
港湾分科会
防災部会
中間とりまとめ

すべての地方整備局で
検討を開始するが、特に
検討を急ぐのは5局。

北海道開発局

関東地方整備局

中部地方整備局

近畿地方整備局

四国地方整備局

九州地方整備局

沖縄総合事務局

- 東海・東南海・南海地震等の連動による想定地震・津波高の見直し

- 臨海工業地帯の地震・防災対策

- 海岸保全施設の老朽化対策、地盤の液状化対策

臨海工業地帯の地震・防災対策

三大湾の臨海工業地帯における 生産機能・物流機能の集積

- 生産機能→我が国の製造品出荷額の41%を三大湾沿岸都府県が占めている。
- 物流機能→我が国の外貿コンテナ貨物量の79%が三大湾の港湾に集中している。

埋立護岸等の老朽化の進行など

- 名古屋港の埋立地の多くが造成後40年以上を経過している。
- ・護岸等の老朽化が進行している。
・地盤の液状化対策が施されていない。

大規模地震発生時の護岸等の被災による被害の拡大懸念

- ◇生産機能の停止
- ◇石油タンクの損傷等による火災
- ◇大規模な油流出による物流機能への影響 等



東日本大震災(平成23年3月)において仙台製油所で発生した火災

臨海工業地帯の地震・防災対策

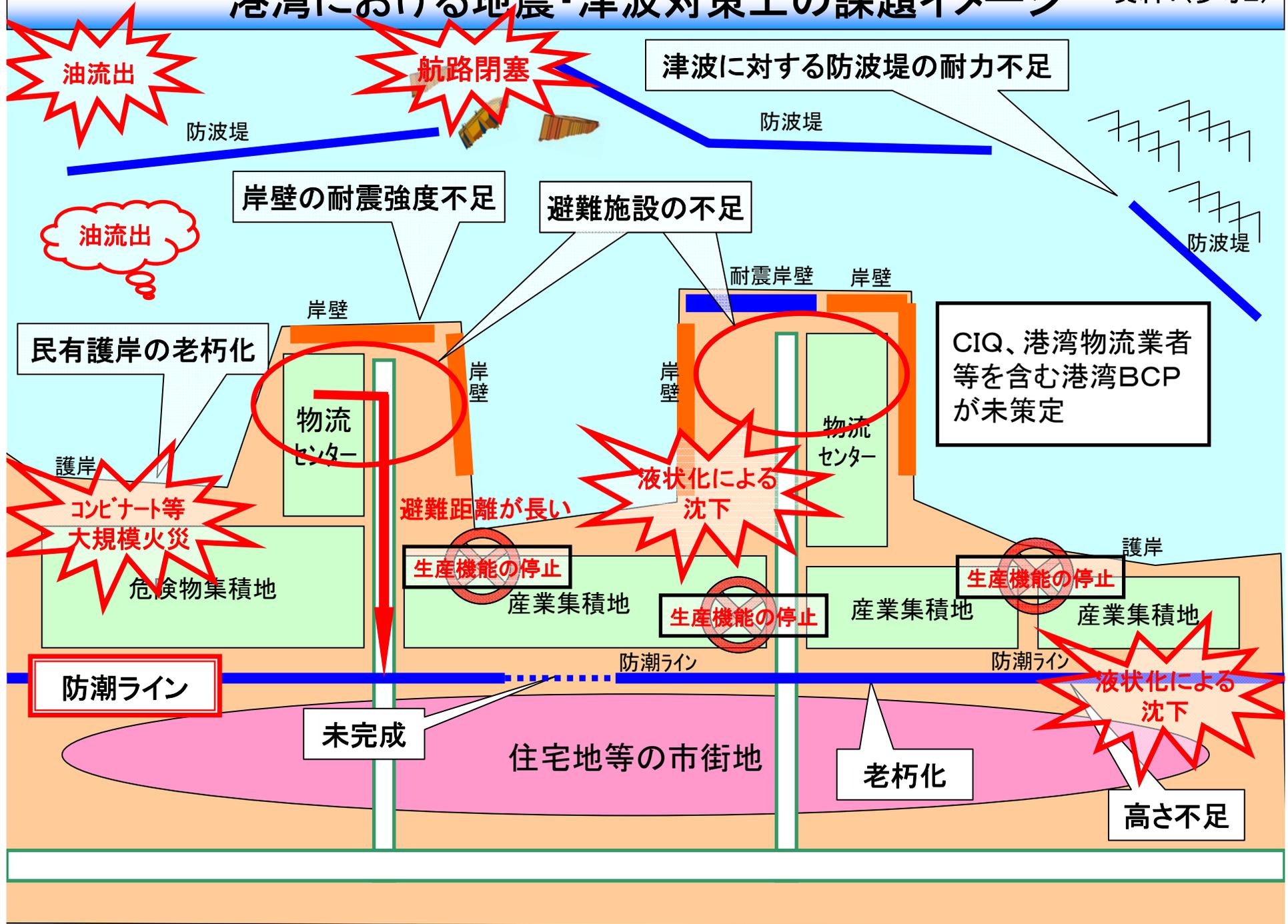
年末までに各地方整備局が決定する総合的な地震・津波対策基本方針に、臨海工業地帯の地震・防災対策を盛り込む予定。

- ◇ 民間企業が所有する港湾施設・海岸保全施設の耐震化の推進
- ◇ 大規模な油流出などに備えた対策
- ◇ 官民共同の枠組みの設定・強化

等

港湾における地震・津波対策上の課題イメージ

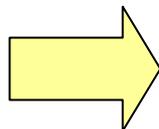
資料1(参考2)



新たな想定地震規模

資料1(参考3)

従来の想定地震規模:「M8.7」



新たな想定地震規模「M9.0」
(東北地方太平洋沖地震の規模)

- ※ 新たな想定地震規模: エネルギー量では従来想定約3倍のため、従来の津波高より大幅に高くなる可能性あり。
- ※ これらの想定は議論の目安として使用。今後、中央防災会議で考え方がとりまとめられた後に精査する予定。

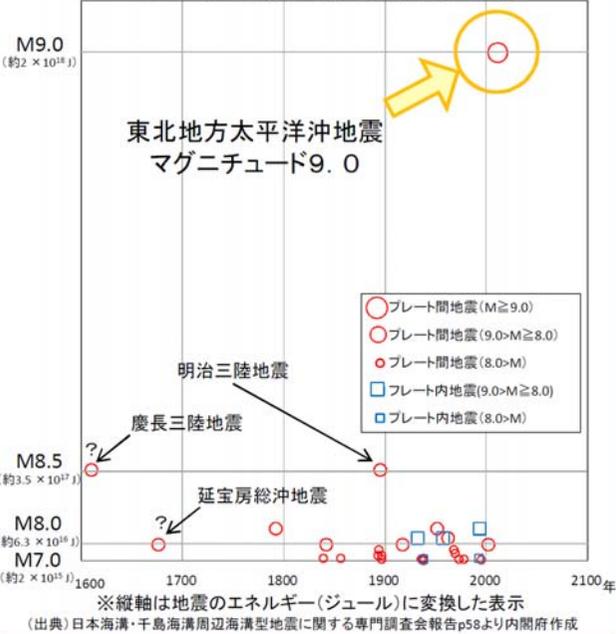
2. 今後の防災対策を検討する際、対象地震・津波の設定についてのポイント

(1) 今後の対象地震・津波の規模をどう考えるのか? (M9.0クラスを想定するのか?)

・日本海溝・千島海溝周辺の地震の発生状況

過去発生していない規模の地震を
どう想定するか?

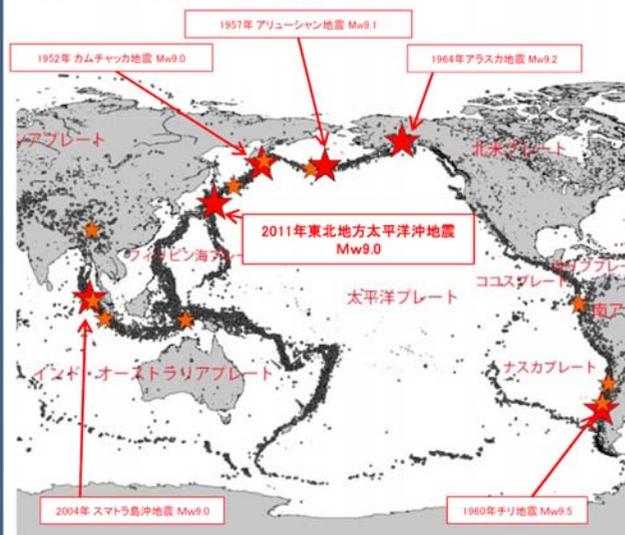
日本海溝・千島海溝周辺の地震の発生状況



・世界の地震(M8.5以上)の発生状況 (1900~)

USGSによる震央(1980/01/01~2011/05/31: Depth \leq 60km: M \geq 5.0)

★ M \geq 8.5 (since 1900) ★ Mw \geq 9.0 (since 1900) ※



(出典) M \geq 5.0はアメリカ地質調査所(USGS) Largest Earthquakes in the World Since 1900

(http://earthquake.usgs.gov/earthquakes/world/10_largest_world.php)

Mw \geq 9.0は東京大学地震研究所 2011年3月 東北地方太平洋沖地震 特集サイトをもとに作成

(http://outreach.eri.u-tokyo.ac.jp/wordpress/wp-content/uploads/2011/03/WorldLargestEQ_v4.jpg)

出典: 東北地方太平洋沖地震を教訓とした地震・津波対策に関する専門調査会(第2回)
資料3-2 対象とする地震・津波の考え方(P3)